

# HIGASHIOSAKA CENTRAL ROTARY CLUB

(第2660地区)

WEEKLY BULLETIN

No. 18

## 東大阪中央ロータリークラブ

創 立 昭和47年2月20日  
例 会 日 毎週月曜日 12:30~  
例 会 場 所 シェラトン都ホテル大阪  
事 務 所 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-38  
〒543-0027 ロイヤルパークス桃坂1112号  
TEL. 06 (6772) 2320  
FAX. 06 (6772) 2327  
E-mail:hcrc@at.wakwak.com



会 長 切 石 博 之  
会 長 ノ ミ ニ 一 浅 野 光 男  
副 会 長 宮 崎 康 治  
幹 事 細 川 勝 治  
会 報 委 員 長 岡 田 忠 彦

## BUILDING COMMUNITIES BRIDGING CONTINENTS

### 地域を育み大陸をつなぐ

2010~2011年度 国際ロータリー会長 レイ・クリンギンスミス

第 1789 例会 平成 22 年 11 月 29 日 (月曜日) 第 18 号

#### 本日の例会

11月29日(月)第5例会

- ◎ソング 「奉仕の理想」  
◎卓 話 「大阪府域の自治制度 現状と今後」  
ゲストスピーカー 大阪維新の会  
大阪府議会議員 西野 弘一様  
(担当:林 孝信会員)  
◎本日の献立 フランス料理

#### 次回の例会

12月6日(月)第1例会

- ◎卓 話 「河内言葉について」  
ゲストスピーカー (榊屋川工作所  
代表取締役 吉川 稔様(榊屋川ロータリークラブ)  
(担当:渡辺 斌会員)  
◎本日の献立 軽 食

#### 前回の例会記録

11月22日(月)第4例会

#### 会 長 挨拶

会長 切石博之

今日の例会は、連休の狭間になってしまいました。その上、細川幹事が欠席で少し心細い事があります。

ところで、先般申し上げておりました「奄美大島豪雨災害支援」の件でございますが、月初の理事会で会長幹事一任のご承諾を得て、奄美大島ご出身の郷田会員とご相談させて頂き、義援金を郷田会員のふるさとの町へ送金する事に決めさせて頂きました。金額は20万円と致しましたので報告させて頂きます。

さて、会長挨拶は「孫子の兵法」について、少しお話ししたいと思います。紀元前380~320年ごろ、中国の戦国時代に活躍した人物で、兵法を角度から説き、兵法の祖

と云われた人です。味方はもとより、敵にも損傷を与えずに、勝利する事を理想としています。

〈孫子巻上・謀攻編〉に曰く

戦わずに敵を降伏させるのが、最上の兵法である。敵を打ち破って勝つのは次善のものでしかない。それ故に「百戦百勝」を最善と云う事はできない。智によって勝つのが第一、威によって勝つのが第二、武器を用いるのは第三、城を攻めるのは最下の策である。

攻城戦は万やむを得ない時にのみする。そのときは、攻城用の諸道具や設備を十分に用意しなければならぬ。それには六ヶ月を要する。もし将軍が怒りにまかせて、用意もなく攻め、兵を城壁に肉薄せしめ、三分の一の兵を死なせて、なお陥落しない時には、天罰を受ける。

これを読み、司馬遼太郎の小説に出てきた、羽柴秀吉と黒田官兵衛が謀略により幾つもの城を攻略した話や、二〇三高地の悲惨な攻防戦が思い起こされました。

今日の俳句は、

ことごとく紅葉散り終え里に冬 高木晴子

#### 幹 事 報 告

副幹事 小川高弘

1. 奄美地方豪雨災害義援金を当クラブとして直接、鹿児島県龍郷町(たつごうちょう)のほうに送らせて頂きます。会員各位には5,000円のご協力をお願い致します。下期会費と一緒にお振込のお願いをさせていただきますので宜しく願い申し上げます。
2. 他クラブ例会変更及び休会の案内を掲示しています。

#### 出 席 報 告

清水委員

本日の会員数  
本日の出席者数

39名  
28名

本日の出席規定適用免除会員	11名
本日の出席率	77.78%
11月8日の修正出席率	87.88%

## SAAニコニコ箱

岡本副SAA

切石会長 情報集会欠席しました。

藤原会員 地球裏側より無事帰ってきました。

佐藤会員 諸会合を欠席致し申し訳ございません。

松岡会員 いつもいいお話をありがとうございます。

## 卓話

### 「驚きのケニア滞在 2週間」

ヒューマン・リソース研究所 鈴木民二様

思わずハッとしたことばは、想像をはるかに超えた力を秘めています。

今から20数年前に来日されたマザーテレサの次のことばもそうでした。

「地球に飢えたところが2ヶ所あります。一つはアフリカで、一つは日本です。アフリカの飢えは物質的な飢え、日本の飢えは精神的な飢えです」

思わずハッとしてメモしたこのことばが、後年わたくしの人生に深く関わることになることは、想像も出来ませんでした。二つの貧しい国の若者が結婚をしたのです。それがわたくしの娘（長女かおり）とは…。相手の若者は、ケニアの青年（ジョン）でした

今年3月、彼の案内でケニアに渡りましたが、驚きの連続となります。

以下、「驚きのケニア滞在2週間」を8枚の色紙に託しましたのでご覧ください。

マザーテレサのことばが、今も両国に顕在していました。モノは豊かだか精神的に貧しい日本、モノは貧しいが精神的に豊かなケニアを目の当たりにします。

日本の未来が危うい。決して財政面だけではありません。「感動、感謝、喜び」 これらを人生の3大資源とわたくしは命名していますが、ケニアから帰国してその対照に驚くばかりです。

「人生の3大資源が躍動するケニア、3大資源が枯渇する日本」

「幸せ先進国ケニア、幸せ後進国日本」

### 「ポリオ撲滅でゲイツ財団と協力」

2007年11月27日、国際ロータリー(RI)は、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団から1億ドルの補助金のチャレンジの申し出を受けたことを発表しました。補助金のチャレンジとは、資金を提供する条件として、それと同額あるいは一定額の寄付を求めることです。

これを受けて、RIでは、その後3年間でこれと同額の資金を調達することになりました。これが「1億ドルのチャレンジ」と呼ばれるポリオ撲滅のための資金調達

のスタートです。

このとき、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団共同会長のビル・ゲイツ氏は、「ポリオ撲滅があと一歩というところまで前進できた背景には、ロータリアンの並々ならぬ尽力があり、これが極めて重要な役割を果たしました」と述べています。

この補助金の額は、同額の組み合わせを求めるビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団としては、それまでで最大のものであり、また、ロータリー財団にとっても、それまでに受け取った中で最も高額な補助金でした。

さらに2009年1月21日、ビル・ゲイツ氏自ら、国際協議会で、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団が前述の1億ドルに加えて2億5,500万ドルを、RIに提供すると表明しました。これに応じて、RIでは、追加で1億ドルの資金を、2012年6月までに調達することを発表、「2億ドルのチャレンジ」になり、現在、世界中のロータリアンがそれぞれのやり方で資金集めに尽力しています。

ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団が、RIに資金提供をしたのは、この2007年が初めてのことでありません。2002年に8,000万ドルを提供しています。このときRIでは、創立100周年を迎える2005年までにポリオを撲滅することを目指し、「約束を守ろう、ポリオをなくそう」を合言葉に、「ポリオ撲滅募金キャンペーン」を展開、目標の8,000万ドルに対し2倍の金額が集まりました。

1979年9月、RIはフィリピンで、生後3か月から36か月の子ども約600万人に対して、5年間のポリオ免疫活動を始めました。これがRIの最初のポリオ撲滅の活動になりました。その後、1985年、RIは正式なポリオの撲滅に取り組み始め、現在も、世界中のロータリアンたちが、ロータリーの最優先事項として、取り組んでいます。

残念ながら、当初目指していたように、ロータリー100周年までにポリオを撲滅することはできませんでした。現在、ポリオが常在する国は4か国にまで減少しました。これらの国々での発症例も、2010年度に入って急激に減っているとの朗報が、2010年モンテリオール国際大会で、世界保健機関・世界ポリオ撲滅推進計画責任者のブルース・アイルワード博士から発表されました。同氏は、「史上初めて、ポリオを最後の拠点から追放できる状況になりました。また、6か月間インドのウッダパダ州で全く症例が発生していません。ナイジェリアにおいても、ポリオの発症が99%減少しました。ロータリアンの皆さまはこの瞬間を待っていたことと想います」と述べています。

[ロータリーの友11月号より]